

令和4年度第1回第三セクター等改革推進部会委員の質問及び県の回答

項番	法人名称	委員	確認部分 (ページ)	質問内容	法人(所管課)からの回答
1	(公財)神奈川産業振興センター	尾上委員	6	県民サービスの向上等の総括的目標 No.1 ワンストップ総合支援の目標値を19,000件とした理由について、もう少し詳しく教えてください。 (質問の理由)ワンストップ総合支援サービスは順調に推移しているにもかかわらず(令和元年度より24,000件を超える実績(令和3年度は24,000件を少し下回っているが)、なぜ、わざわざ低い目標値を設定しているかよくわからないので。	令和元年度からの3年間は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、件数が目標値を大きく上回る結果となりました。 令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが想定されますが、政府や自治体、金融機関においてゼロゼロ融資(※)といった経済対策が講じられた結果、令和4年度にKIPに寄せられる相談は、総合的な相談の減少が見込まれる一方、例えば売上拡大に向けた取組などより具体的な相談が増加していくと想定しております。
2		士野委員	6	「No.1ワンストップ総合支援」のR4目標値について、R1～R3にかけて24,000件前後で推移する中、R4では目標値を大きく引き下げた理由を教えてください。目標値の設定根拠を見ても引き下げる理由が見当たらないように思えるのですが…。	一例として、喫緊の課題となるであろう販路開拓のニーズ(ゼロゼロ融資を受けた企業が返済のために必要な販路の拡大についての対応等)の増加を見込んでおります。そういった新型コロナウイルス感染症対策に応じて、相談・支援ニーズの変動という想定にコロナ禍を受けていなかった当時の実績も踏まえて、19,000件とさせていただきます。
3		中村委員	6	NO1ワンストップ総合支援の目標値について、令和元年、令和2年、令和3年と、近年はいずれも23,000件を超える相談対応件数となっていますが、令和4年度にこれを下回る19,000件の目標とした理由は何かありますか？ 今回は1年延長だから従前の目標値との連続性を重視していた、次の中期計画では、実績を踏まえた相当の目標とするというご予定なのでしょうか。	(※)ゼロゼロ融資 日本政策金融公庫等の政府系金融機関による実質無利子・無担保で融資する仕組み
4		尾上委員	6	県民サービスの向上等の総括的目標 No.2 販路開拓支援の目標値を5,900件として理由について、もう少し詳しく教えてください。 (質問の理由)コロナ禍前の令和元年度は5,425件の実績であったが、それ以後、2,930件、1,900件と低迷している。そのような中で、令和元年度を上回る目標値を設定しているの、何らかの手応えなどを感じておられるのでしょうか。	上記のとおり、相談・支援ニーズのシフトを見込んだものです。 なお、令和3年度はコロナ禍によりサプライチェーンの停滞など経済活動が大きく制限されたことなどを受け、発注案件が減少したこと、従来のリアルでの商談会開催が難しい中、「リアルでない」と商談会に参加しない」といった企業も一定数あったことにより、商談件数が大きく減少してしまいました。
5		唐下委員	6	「No.2販路開拓支援」の令和3年度実績(見込)に対して、令和4年度目標が3倍近いですが、実行可能な数値なのでしょうか。令和3年度が低かったのは理由があるのでしょうか。	令和4年度の商談件数の目標設定については、中期経営計画を1年延長していることから、現行計画の考え方を踏襲する形での努力目標値として設定しています。コロナ禍により、多くの企業を取り巻く現状はまだまだ厳しいものの、中小企業が積極的に販路開拓に取り組もうとする機運は上昇傾向にあると考えています。
6		士野委員	6	「No.2販路開拓支援」のR4目標値について、R1の実績値をやや上回る水準となっていますが、これは商談会開催等をめぐる環境がR1よりは少し良くなるとの見通しによるという理解で良いのでしょうか。なお、参考までにコロナ以前の実績はどの程度の水準であったか教えてください。	中小企業の積極的な販路開拓活動を最大限支援していく必要がある中、コロナ禍を契機に「オンライン商談会」という新たな手法による商談会を実施していますが、開催手法にはまだまだ改善の余地があり、この点を改善すること、また、新たに立ち上げる「オンライン商談ルーム」を活用することにより、目標達成に向けて最大限努力していきたいと考えています。 ※コロナ禍以前の商談件数の実績は、令和元年度：5,425件、平成30年度：6,100件、平成29年度：5,892件、平成28年度：5,257件でした。
7		士野委員	6	「No.3創業・イノベーションの促進」について、R4目標値はR3実績見込みを上回ってはいるものの、R2実績よりは低い水準となっています。R4の目標水準の考え方について教えてください。	令和3年度は地域支援機関との連携等により、県内各地域で創業セミナーを開催するなど、KIPの創業支援施策の活用者(参加者)の増加に努めましたが、コロナ禍により、セミナー開催数自体が減少したことにより、前年度実績を下回る結果となりました。
8		士野委員	7	「No.1貸室賃料収入の維持」について、R3の実績見込みはR2の実績を下回っているが、これはR4の目標値設定根拠に記載された内容と同じ理由(自家発電機器の移設に伴う減収)で減収となったものとの理解で良いのでしょうか。	令和4年度の目標設定にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により連携支援機関の動向が不透明であることから、前年度実績と同程度の目標値としました。
9		尾上委員	7	収支健全化に向けた経営改善 No.2 貸会議室・多目的ホール利用料収益の向上の目標(3,500万円)達成に向けての方策について、教えてください。 「近隣住民が実施するサークル活動やコミュニティ活動など、新たな顧客層の掘り起こし」が書かれていますが、具体的にはどのようにアプローチすることを計画しているのでしょうか。また、会議などのハイブリッド開催(対面およびオンライン)が増えているかと思いますが、そのようなハイブリッド形式に対応したサービス提供はどのようになっていますでしょうか。	創業支援にあたっては、SDGsやカーボンニュートラル、DXなど社会的課題を捉えた新たなビジネスプランを持つ創業者などに寄り添い、マーケティングに重点を置いた伴走支援を行うことでビジネスの実現可能性を高めていきます。
10		唐下委員	7	「No.2貸会議室・多目的ホール利用料収益の向上」は、コロナ以前の実績(¥50,000千円程度)に対して、令和4年度目標が低めだと感じます。コロナの影響がまだ残る可能性もありますが、コロナ以前の実績に戻すことは難しいのでしょうか。ハイブリッド方式会議の支援等、新たな施策の可能性はないのでしょうか。	令和3年度実績見込みが令和2年度の実績を下回っているのは、自家発電機器の移設に伴う減収ではなく、令和3年度中に退館した2室について、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国的に入居率が低下傾向にある中、新たな入居希望者が決まっていないことが原因となります。

11	(公財)神奈川産業振興センター	尾上委員	9	<p>「県民サービスの向上等」の目標に対して、所管局の評価が「③十分に高い目標水準か」について「A」評価になっていますが、ワンストップ総合支援の目標値は決してそうではないと思います。どのような根拠で、このような評価をされているのでしょうか。</p>	<p>委員のご指摘のとおり、ワンストップ総合支援における令和4年度の目標値は、令和3年度実績と比べて低い数値となっております。 この高い実績値は新型コロナウイルス感染症の影響によるものであり、令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが想定されます。 一方で、政府等により様々な中小企業支援対策が講じられたことで、「相談のニーズ」は総合的なものから個別・具体的なもの(返済や販路拡大等)に移行していくのではないかと考えております。そういった想定に基づき、具体的な相談への対応となるワンストップ総合支援以外の3項目に着目すると、それぞれ令和3年度実績を上回る目標を設定しており、また、4つの項目の合計も令和3年度実績を上回っております。 中でも今後喫緊の課題となるであろう「販路開拓」に関しては、昨年度の実績比300%超と非常に野心的な数値となっております。 以上のとおり、ワンストップ総合支援については減少という目標設定ではありませんが、相談ニーズの移行等を総合的に勘案した結果、評価を「A」とさせていただきます。</p>
----	-----------------	------	---	--	---